

守山まるごと活性化計画 学区別会議実施記録 第5回

1. 実施概要

学区・回	中洲学区 第5回
日時	2013年11月20日(水) 19:30~21:30
会場	中洲会館
参加者	住民17人(新庄2人、服部4人、立田4人、幸津川4人、小浜3人) 守山市(井入、木村、川上、坪内、吉原) 地域未来研究所(田淵、山田、前田)
会場設営	前半は自由席。後半は3テーブルを配置、重点プロジェクト毎に希望するテーブルに着席
実施経過	<p>1. 挨拶</p> <p>①開会挨拶(坪内課長補佐)</p> <p>②開会挨拶(本城学区長)</p> <p>2. 説明と重点プロジェクトの投票およびまちづくりテーマ案の選択</p> <p>①本日のプログラム内容(田淵)</p> <p>②第4回検討結果の説明(田淵)</p> <p>③プロジェクトの絞り込みとまちづくりテーマ案の選択(投票)</p> <p>■選択された「重点プロジェクト」</p> <p>→ ①野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト</p> <p>→ ②みんな集まれ!中洲イベントプロジェクト</p> <p>→ ③農業を元気にするプロジェクト</p> <p>→ ④安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト</p> <p>■選択された「まちづくりのテーマ」</p> <p>→ 野洲川と共に生き、野洲川と共に栄えるまち</p> <p>3. 重点プロジェクトの掘り下げと実現化方策についての意見交換(テーブル別ワーク)</p> <p>【主な意見】</p> <p>■野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト</p> <p>・親水公園の整備計画は行政でも検討が進められており、これと地域住民が連携して整備内容や活用方法について検討する。</p> <p>・伏流水については、調査や具体的な方法を行政が検討するとともに、地元の意見</p>

と調整しながら検討を進める。

■みんな集まれ！中洲イベントプロジェクト

- ・様々な人が集まる場としてイベントを活用するが、新たに企画し実施するのではなく、まずは既存イベントを改善・工夫（野菜販売やフリーマーケットなど）する。
- ・地域住民が参加しやすく、企画・運営にも関わりやすくなるような内容を検討し、さらにシニア世代の支援により若年層を巻き込むことも努力する。

■農業を元気にするプロジェクト

- ・新たなブランド作物の開発や守山メロンや果物など既存ブランド作物のさらなる活用やPRに取り組む。JA中洲支店跡地などを活用した加工所や道の駅、観光農園の整備も検討する。
- ・休耕田の農地集約を実施し、新たな担い手を活用した農業振興も推進する。
- ・「ふなずし」や中洲の農業を外部に向けてPRするとともに、「農」と「漁」を地元特産品として一括して開発・PR・販売に取り組む。

■安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト

- ・誰も利用できる公共交通を目指し地域と行政が協働して取り組む。
- ・既存のバス路線やふれあい交通、もーりーカーの改善・見直し検討や、公共交通に関する情報提供をより分かりやすく行う。
- ・ビックレイクなどの集客施設への公共交通アクセス利便性の向上とともに、訪問客を対象とした中洲学区の特産品販売についても推進する。

4. 結果の発表・共有

- ・テーブル毎に参加者の代表が学区の重点プロジェクトの取組や役割分担について協議内容を発表し、共有化した。

5. その他

- ・学区別会議は今回で一旦終了。12月～1月頃に全体会議・活性化プラン（素案）の完成。2月頃に活性化プラン（素案）を地域で説明。3月に活性化プランの完成という予定で進めることとなった。

第5回中洲学区会議の様子



2. 第5回学区会議の意見まとめ

中洲学区のまちづくりのテーマおよび重点プロジェクトの投票結果、検討内容をまとめた。

<中洲学区のまちづくりのテーマの投票結果>

- ① 野洲川の恵みを孫子の代まで受け継ぐまち 中洲
- ② 野洲川で集い遊び、湧水とともに生きるまち 中洲
- ③ 『鮭切り祭り』が伝える川辺の歴史・食文化のまち 中洲
- ④ 人柄の良さ、自然、助け合いの精神で『とても住み良い』まち 中洲

新規案 野洲川と共に生き、野洲川と共に栄えるまち

これを採用

注) 中洲学区では「野洲川」をメインテーマに据えるべきという意見が多数出された。また、事務局案の①や②では、将来の展望（中洲学区がこれから発展していこうという意味合い）が含まれていないという意見があった。そのため、新規案として「野洲川と共に生き、野洲川と共に栄えるまち」が提案され、新規案が選ばれた。

<重点プロジェクトの投票結果>

注) 投票の結果を踏まえて意見交換をしたところ、①と②は野洲川に関わるプロジェクト、③と⑤は人が集まる場に関するプロジェクト、④と⑦は公共交通に関するプロジェクト、⑥と⑧は農業・食に関するプロジェクトのように、一緒に考えるべきプロジェクトを1つにまとめた方が良いという意見があったため、以下のようにプロジェクトを再構成した。

- ①野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト（下表①と②を一体化）
- ②みんな集まれ！中洲イベントプロジェクト（下表③と⑤を一体化）
- ③農業を元気にするプロジェクト（下表⑥と⑦を一体化）
- ④安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト（下表④と⑦を一体化）

プロジェクト名	投票結果（票数）			採否
	必要性	興味	合計	
① 野洲川の伏流水再生プロジェクト	19	4	23	○
② 野洲川河川敷いきいきプロジェクト	12	8	20	○
③ 野洲川に集まれ！イベントプロジェクト	6	13	19	○
④ ビックレイク活用プロジェクト	3	9	12	○
⑤ 学区内外の人が集まる交流プロジェクト	2	9	11	○
⑥ 農業を元気にするプロジェクト	4	7	11	○
⑦ 安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト	6	1	7	○
⑧ 歴史・食文化活性化・PRプロジェクト	0	0	0	○
⑨ 企業誘致・過疎化対策プロジェクト	5	2	7	
⑩ 元気なシニア世代の活用プロジェクト	0	3	3	

※投票は、各人「地域のまちづくりに必要と思われるもの」3票、「自分自身に興味があり取り組んでみたいもの」3票の合計6票を持ち、各プロジェクトに投票してもらった。（一つのプロジェクトに複数投票可）

これらを再構成して重点プロジェクト化

2.1 中洲学区のまちづくりプロジェクトに対する個別意見・実施に向けての役割分担など

プロジェクト名	取組	意見
①野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト	<p>■取組 1 河川敷の公園化推進</p> <p>■取組 2 みんなで担う公園管理の仕組みづくり</p> <p>■取組 3 伏流水の取水方法検討</p>	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●行政でも親水公園の整備計画が進められており、地元で活用の方法や整備内容を考え行政と連携して進める必要がある。 ●管理体制についても整備計画と並行して今後検討する。 ●中洲の子供が集まりやすい場所になれば良い。 <p>【役割分担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地元でできること <ul style="list-style-type: none"> ・親水公園の整備計画や伏流水の再生事業について地元の意見を集約して行政と連携。 ●行政等にサポートを求めること <ul style="list-style-type: none"> ・伏流水を再び里中に流す方法などについての調査実施。 ・専門家の知識を元に行政が計画し、地元の意見を調査。
	<p>■取組 4 里中河川沿いの景観づくり</p> <p>■取組 5 伏流水を活用した事業の実施</p>	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水が流された後に地元の取り組みに繋げる必要がある。 <p>【役割分担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地元でできること <ul style="list-style-type: none"> ・活用方法の検討、取り組みの推進。
②みんな集まれ！中洲イベントプロジェクト	<p>■取組 1 既存イベントを活用した地域内外の交流活性化イベントの開催</p>	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新たなイベントを企画し実施するのではなく、まずは既存イベントを改善・工夫（野菜販売、フリーマーケット等）する。 <p>【役割分担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地元でできること <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が参加しやすく、企画・運営にも関わりやすくなるような内容を検討。 ・シニア世代の支援により若年層を巻き込む努力も必要。

プロジェクト名	取組	意見
③農業を元気にするプロジェクト	<p>■取組 1 中洲ブランド特産品の開発</p> <p>■取組 2 加工所、道の駅、観光農園の整備</p> <p>■取組 3 「担い手」活用の推進</p> <p>■取組 4 体験型農業・レンタル畑・イベント・PR活動</p>	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「守山メロン」や「吉川の菊菜」は既にブランド作物として認知されている。その他の作物についてもブランド化を推進。 ●今は個人で加工している製品を加工所にて連携して製品化する。 ●産地を明示することで中洲のPRにも貢献できる。 ●JA中洲支店跡地を活用した加工所整備や、フルーツランドの道の駅化、観光農園の整備を推進する。 ●道の駅での販売員といった雇用も創出可能。 ●休耕田の農地集約を実施し、大規模な農地を作り「担い手」を活用した農業振興。 ●都会から近いという特性を活かし、体験型農業やレンタル畑事業やイベント開催を推進。
	<p>■取組 5 「食」「農」PR活動</p>	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「ふなずし」を外部へ向けてPR（HPやメディア、行政や観光協会と連携）。 ●中洲で農地を借りてメロンを生産している事例の紹介やイベントの紹介などPR推進。 ●「農」「漁」を地元特産品として一括して開発・PR・販売に取り組む。

プロジェクト名	取組	意見
④安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト	<p>■取組 1 既存バス路線など現在の公共交通の改善</p> <p>■取組 2 ふれあい交通の見直し・モーリーカーの活用</p> <p>■取組 3 地域の力を活用した公共交通</p>	<p>【意見】</p> <p>●誰も利用できる公共交通を目指し地域と行政が協働して取り組むことが重要である。</p> <p>【役割分担】</p> <p>●地元でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域内の資源（飲食店のマイクロバスなど）を活用した、地域で担える公共交通を検討。 ・公共交通利用すると店舗で割引が受けられる等、店舗と連携した利用促進策を検討。 <p>●行政等にサポートを求めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守山駅から取付道路を運行している既存バス路線の一部を中洲～取付道路～守山駅にルート変更を検討。 ・ふれあい交通をきちんとした有償サービスとして位置づけるなど、課題整理と見直しを検討。 ・モーリーカーのさらなる有効活用や改善策を検討。 ・運行にかかる法体系など複雑な部分が多いため、行政と協働で推進。
	<p>■取組 4 分かりやすい公共交通の情報提供</p>	<p>【意見】</p> <p>●公共交通の利用状況や詳細な利用方法等を詳しく知らない人が多いと思われるので、分かりやすく訴求力の高い方法を検討する必要がある。</p> <p>【役割分担】</p> <p>●地元でできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会広報誌等での情報提供を実施。 <p>●行政等にサポートを求めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PRチラシや利用促進チラシの作成ノウハウや作成そのものを支援。

プロジェクト名	取組	意見
④安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト	<p>■取組5 ビックレイク等集約施設への公共交通による交通アクセス利便性向上</p> <p>■取組6 ビックレイクを活用し中洲学区の特産品を販売</p>	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ビックレイク等の集客施設へ公共交通によるアクセス利便性を向上させることで、公共交通とビックレイクの両方を活性化する。 <p>【役割分担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地元でできること <ul style="list-style-type: none"> ・ビックレイクにてスポーツ大会等の開催時に特産品を販売。 ●行政等にサポートを求めること <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ目的での訪問者向けに農家民宿を整備し、中洲の食文化や歴史をPR活用方法の検討、取り組みの推進。